

Duet

2025秋 vol.154

特集

中江藤樹・たかしまミュージアム オープン!

蔵書数約1万5000冊!

自費出版ライブラリー「考耕行」オープン
「日本自費出版文化賞」応募作品が一堂に

INFORMATION STATION 催し案内 2025秋

MYBOOK 自費出版物の紹介

SUNRISE BOOK PRESS サンライズ出版の新刊案内

西播磨山古墳の調査
滋賀の文化情報誌
デュエット

昔の時代とその後の高島



特集

中江藤樹・たかしまミュージアム オープン!



上：マキノ資料館
左上：朽木資料館
左：高島歴史民俗資料館
(3点とも高島市提供)
3館とも令和6年(2024)
3月31日をもって閉館



中江藤樹・たかしまミュージアム

住 所 高島市安曇川町上小川69

連 絡 先 TEL・FAX 0740(32)0330

休 館 日 月曜日(祝日・振替休日の場合は開館し、翌平日が休館)、
12月29日から1月3日まで

入 館 料 一般(高校生以上)300円、小・中学生および未就学児無料

駐 車 場 無料(台数限りあり)

ア クセス JR湖西線「安曇川駅」より徒歩18分／高島市コミュニティバス木船線「藤樹記念館前」下車すぐ

取材／編集部 写真／辻村耕司

これまで埋もれていた文化財の再発見や 初公開の場になればと思っています。

旧町村の4つの資料館を1か所に集約

——6月に開館した中江藤樹・たかしまミュージアムについて、ます開館までの経緯をお話しいただけますか。

早川 もともとは、安曇川町が昭和63年（1988）に開館した中江藤樹記念館がありました。中江藤樹の遺品など、主に藤樹書院^{*2}の所蔵品を中心にお預かりして、藤樹の教えなどをお伝えする施設でした。

山本 平成17年（2005）に高島郡の5町一村が合併しましたが、そのうち4町村に、歴史系の展示施設がありました。高島歴史民俗資料館、朽木資料館、マキノ資料館、そして安曇川町の中江藤樹記念館です。

合併した自治体ではよく起こりがちなことなのですが、旧町単位の資料館はスペース的に小さく、それぞれの館が離れていて、交通の便もあまりよくなく、高島市にお越しになった方が周遊するのも難しい状態でした。それらを1か所に集約する場合、観光面でも、すぐそばに道の駅「藤樹の里あどがわ」がある藤樹記念館がベストだろうということになりました。

——そこは高島歴史民俗資料館に集約する形になると思うと思っていたので、少し意外でした。

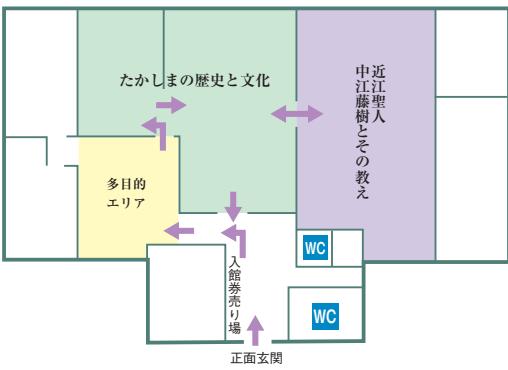
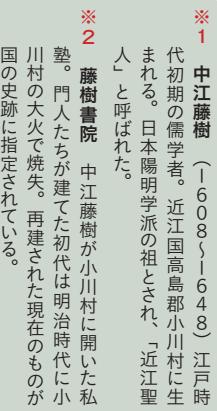
山本 合併した高島市では、このあたりが地理的にも中央部に近く、各種文化施設が集まっています。なおかつ、市外からお越しいただく方にもアクセスしやすい場所だということで選ばせていただきました。

——早川さんは、どの段階から関わられていたのですか。

早川 私はもともと中江藤樹記念館の職員として勤務していました。今回、旧施設閉館の準備から新施設のオープニングまで幅広い範囲で関わさせていただきました。

——計画どおりに進みましたか。

山本 ほぼ計画どおり進みました。展示スペースを少しでも広くするために、



↑中江藤樹・たかしまミュージアムの平面図

もともと講義室と図書室だった部分を改築し、展示室を拡大させています。同時に段差などをなくすバリアフリー化、照明のLED化も行いました。

早川 以前は右側の部屋と入口正面奥の部屋の2部屋だけが展示室で、左側は図書室、少し広めの講義室でした。

中江藤樹・たかしまミュージアム
学芸員

早川貴子さん

はやかわ・たかこ／1976年、滋賀県生まれ。

中江藤樹・たかしまミュージアム
館長

山本晃子さん

やまもと・あきこ／1970年、滋賀県生まれ。高島市教育委員会文化財課長と兼務。

——そこは高島歴史民俗資料館に集約する形になると思うと思っていたので、少し意外でした。

もともと講義室と図書室だった部分を改築し、展示室を拡大させています。同時に段差などをなくすバリアフリー化、照明のLED化も行いました。

↑中江藤樹・たかしまミュージアムの平面図

*1

中江藤樹（1608～1648）江戸時

代初期の儒学者。近江国高島郡小川村に生まれる。日本陽明学派の祖とされ、「近江聖人」と呼ばれた。

*2

藤樹書院

中江藤樹が小川村に開いた私塾。門人たちが建てた初代は明治時代に小川村の大火で焼失。再建された現在のものが国の史跡に指定されている。

広さにゆとりがあつた講義室をさらに分割することで、団体でも対応できる広さの多目的エリアと調査に必要な作業室を確保できました。

——閉館した3館にあつた考古学系の資料や民具などは、どうなつたのですか。
早川 旧マキノ資料館が収蔵スペースとなりました。展示室だったところ全部に棚を

設置して、多くの資料を収蔵できるようにしています。
山本 実質的には、4館を2館にした感じです。旧マキノ資料館を収蔵庫として、展示機能を当館へ集約しています。

大騒動だつた資料の引っ越し

——収蔵品の移動は、いつごろの作業だったのですか。

早川 令和6年（2024）4月1日からです。まず中江藤樹記念館にあつたモノをいったんすべて運び出すことから始まりました。資料を一つずつ梱包し、備品なども含めて何もかもを搬出して、からっぽになりました。

中江藤樹記念館の図書室には関連図書が一万冊以上あり、それをひもで結わえるところから始め、移動はまさに人海戦術でした。本の仮置き場はエレベーターがない場所だったので、階段を皆で「わっしょい、わっしょい」という感じで。あれで4kgぐらいい痩せました。

山本 それは申し訳ない。

早川 すぐ戻りましたが、その時期は、みんな筋肉がついて体がショットとしていました（笑）。

山本 それから、先に改修しておいたマキノ資料館へ、高島歴史民俗資料館のものを移し、朽木資料館のものを移し……。

早川 当然大きな物もたくさんあるので、専門の業者さんにも来ていただきて。山本 一時的に一部を他施設の空いている部屋などに置かせてもらつたこともあります。「これはどうしましようか」「これは、こっちのスペースに置いて」といった、本当に発信などもしやすくなりました。

やりとりをくり返して。

早川 よかつたのは、しつかり資料などの整理整頓ができたことです。

——昨年度は大変だつたのですね。6月から開館で、それまでの中江藤樹記念館

——大騒動だつた時代からの変化はありますか。

早川 そうですね、来館者の層は確実に変わっていて、以前は高島歴史民俗資料館に

来られていた埋蔵文化財関係や歴史関係のファンも、こちらに来ていただけるようになりました。

山本 旧マキノ町や旧今津町の遺跡からの出土品はあまり展示ができていたなかったので、今回久しぶりにお目見えしたものもあります。

早川 今回、作業の中で実際に一つひとつ眼にして、「ああ、こんなものがあつたんだ」と、再発見のような面もありました。

山本 とはいって、収蔵品全部が展示できるわけではないので、定期的に展示替えするなかで、そつしたものをお見せしないければと思つています。

——市内の資料を公開する館として、非常にいい施設ができたということですね。

山本 開館告知チラシのキャッチフレー

ズを「たかしまの歴史がすべてがわかるミュージアム」とさせていただいたとおり、本当に発信などもしやすくなりました。

特に私は市の文化財課にいましたので、市役所にお問い合わせの電話があつたときに、「それはマキノにあるんですよ」、「それは高島に来ていただいて」、「それは中江藤樹記念館なんです」みたいにバラバラのお答えになつていたのですが、ようやくすべてのお問い合わせに、まず当館へ問い合わせしてきました。まさに文化財情報の拠点施設ができたと思つています。

お答えになっていましたが、ようやくすわせて来館していただくとわかりますとお答えできるようになります。まさに文化財情報の拠点施設ができたと思つています。

早川 外部から調査に来られた方も、まずは当館に来ていただいて準備をしていただけて、効率もとてもよくなりましたね。

山本 本当にいままでにはウロウロしていたことがあります。職員も分散していたので、それが一か所に集まれたメリットも大きいです。

早川 私もいままでは藤樹のことに関心していましたが、市内全体のことを満遍なく学べる機会をいただけたことで、市内地域間での知らなかつたつながりを発見できたりしています。

——そうすると、市内の小学校の見学などもやりやすくなつたでしょうね。

早川 それもあります。マキノ資料館と朽木資料館は事前予約をいたしました時の開館していましたが、その都度館へ行って鍵を開けて、いろいろ準備してと大変でした。

山本 計画当初は、それぞれの地元の方から「資料館がなくなるのは寂しい」というお声ももちろんいたいたのですが、市民の多くは自動車で移動をされますし、二台の車のものを見ることができたので、新たな発見があつたという方が多くいらっしゃいますね。

——今回の統合を機会に、資料の再整理ができたという部分もあるわけですか。

早川 それはとあります。
山本 埋もれた資料があつてはいけないのですから。

早川 現在高島市内にはこれぐらいの規模の文化財があるんだというのが、共通認識できるようになったのはよかつたなと思っています。

山本 資料整理は令和2年度に作成した「高島市文化財保存活用地域計画」に基づいて進めました。

早川 コロナ禍で閉館していた時期に、資料整理を進めていたのが、功を奏したという実感があります。

山本 地域計画では、一館へ統合のような具体的な計画は決まっていなかったのですが、合併して15年ぐらいは経っていましたので、各館の資料整理は必要であると考えていました。それが一定程度できたので、集約に踏み切れたというのはあります。

——合併した市では、合併前に町立として誕生した施設の今後が課題になっているところもあります。その点、高島市はうまくいったという感じでしょうか。

山本 それぞれの市で計画を立てておられるとと思いますが、課題が多いという話もよく聞きますので、少しでも参考にされる例になればと思います。

——展示の仕方、来館者への見せ方、伝え方もいろいろ変化していますが、そのあたりはいかがですか。

山本 時代に合ったものにするという意識を持つて進めていたつもりですが、新しいものをつくろうとするに当たっては、当然経費もかかります。館内全部で『*三・五*』を利用できるようにして、どこででも説明を見られるとか、

藤樹先生の画像が話し出されるとか、特に子どもを対象にしたわかりやすい展示のためにやりたかったことはあるのですが……。

——予算およびですね。

山本 ただ、事前に見学させていただいた館で、「そういう技術はどんどん変わるもの、一度導入すれば維持経費もかかるので、もっと慎重にやった方がいいですよ」というアドバイスもいただきましたので。予算内で、紹介映像は3種類作成しました。

早川 映像の作成は、制作会社に発注したのですが、若手のスタッフが多くつたもので、イメージを伝える段階からジエネレーションギヤップがありました。藤樹の解説映像で、「藤樹のお母さんのイメージはどう

——それでは続いて、館内の展示についてご説明いただけますか。

早川 高島の歴史と文化については、まず多目的エリアで、高島全体の歴史を網羅した15分の映像を見ていただけます。最初の展示室にあたる「たかしまの歴史と文化」では、令和7年度は「*継体大王出生の地*」がテーマの中心になっており、考古系の資料、遺跡からの出土品を中心展示しています。

——その継体大王というのは、第26代継体天皇のことです。第25代武烈天皇に子がなかつたため、北陸に住む地方豪族の身で天皇の位についた異色の存在として、古代史ファンにとても人気があるそうですね。

山本 そうなんです。「近江国高島郡三尾



↑紹介映像が上映される多目的エリア。他の催しなどにも利用することができます。

（現、高島市安曇川町二尾里付近）で生まれたとされ、付近には継体大王にまつわる遺跡や伝承が数多く残されています。

早川 展示の後半では、平安時代以降、戦国時代ぐらいまでの文化財を紹介し、隣の展示室「近江聖人中江藤樹とその教え」で藤樹が活躍した江戸時代初期につながるようになっています。

山本 企画展、常設展という分け方はしておらず、現在の展示も常設展というわけではありません。来年度は大河ドラマ「豊臣兄弟！」の関係で「戦国時代の高島」がテーマとなり、織田信長の甥・信澄が築いた大溝城や「信長の朽木越え」などを紹介することになるだろうと思っています。

——展示を見ると、先ほどもおっしゃついたように古代の出土品、土器や石器などがたくさん並んでいます。

山本 大きな甕は、今津町の北仰西海道遺跡から出土した土器棺で、縄文時代晚期の集合墓地で遺体を入れたものです。

※3 メーテル 松本零士作・原作の漫画とアニメ『銀河鉄道999』などに登場するロイイン。

※4 繼体大王 (？～531～?) 第26代天皇。名は男大王。第15代応神天皇の5世孫（曾孫の孫）とされる。



↑北仰西海道遺跡出土の土器館
(縄文時代晩期、高島市教育委員会蔵)

——こちらの区画の中央に置かれているのが、双環柄頭短剣の鋳型ですね。

山本 平成25年（2013）に安曇川町の御殿遺跡から滋賀県文化財保護協会による発掘調査で見つかったものです。国内で出土例のない大発見だというので、当時、新聞の一面に大きく報じられましたね。

——私もすごく印象に残っています。

山本 柄の頭に二つの輪がある形は、中国北方地域で春秋・戦国時代（紀元前8世紀～前3世紀）に騎馬民族が使っていた「オルドス式短剣」という剣の特徴だそうです。ただ、実際にこの鋳型を短剣製造に使った形跡はなく、未使用のようです。

早川 計測すると、組み合わせたさいに少しづれているそうですね。

山本 それでも、少なくとも日本で作り出された型ではなく、高島は日本海側からさまざまな大陸のものが流入してきた地だったということは言えると思います。出土土地は田んぼの中でも、まだ周辺で圃場整備の事業は続いており、さらに発見があるかもと期待しています。



↑上御殿遺跡出土の双環柄頭短剣鋳型
(弥生時代～古墳時代、滋賀県蔵) [展示は10月26日まで]

山本 そうです。所蔵する滋賀県からお借りしています。これまで展示する場所がないで、高島市で出土したのに市内で展示ができるになかったんです。近江八幡市にある滋賀県立安土城考古博物館では平成29年（2017）の秋季特別展で展示され、県指定文化財に指定されたあの令和2年（2020）にも展示されました。

ようやく地元にお迎えできる環境が整つたわけです。

——続いて、古墳からの出土品になると、

直接、継体大王に関わってきます。

早川 こちらにあるのが、継体大王の父・

彦主人王（ひこすけおうし）の墓とされる田中王塚古墳を中心とした田中古墳群の36号墳から出てきた馬具類です。

円形の二つは雲珠（くもづ）と呼ばれる金具ですが、見学した子どもたちが「かわいい」と言っていました。新鮮な反応です。

※5 彦主人王（生没年不詳）近江国高島郡三尾を本拠とする豪族。第15代応神天皇の4世孫（玄孫）。越前から姫媛（ひめびと）を妻として迎え、生まれたのが継体大王とされる。

※6 雲珠 馬の尻に掛け渡した革製ベルトの結節点を固定するための金具。



←鴨稻荷山古墳出土の金銅製冠（複製）
(高島市教育委員会蔵)

↓田中古墳群（36号墳）出土の馬具類
(古墳時代、高島市教育委員会蔵)



——これは、高島市では初の展示になるのですか。

山本 鴨稻荷山古墳は6世紀の前方後円墳で、明治35年（1902）に発見され、大正12年（1923）に京都大学によって本

格的な発掘調査が行われました。未盗掘の王陵からの出土品との類似が指摘されていました。継体大王とともに近い在地の豪族・三尾氏に関連する人物が埋葬されたと考えられています。

きれいな宝冠や飾履（しゃりゆ）のレプリカは、高島



↑高島歴史民俗資料館から引き継いだ鵜川四十八体仏と
鶴稻荷山古墳の家形石棺のレプリカ



↑棕川日吉・山神社の懸仮
(室町時代、高島市指定文化財、棕川区蔵)



↓「朽木家文書」
(高島市指定文化財、個人蔵)

山本 これも高島歴史民俗資料館にあつたものです。大きな石造物は実物を持つてゐるわけにもいかないので、これはありがたいと思って使いました。

ここは、中世における「信仰」をテーマとしています。「大般若經」は市内にたくさん残つておりますが、県指定文化財になつているものもあります（展示は県指定はふくみません）。600巻もあるので、特に旧朽木村地域では神社やお寺での保管が難しくなり、朽木資料館に寄託を受ける場合が多くなつていました。保管はされたもののままいっぽなしの状態だったのですが、今回、このように展示・公開することができます。

歴史民俗資料館で展示していたものですが、原寸大の石棺模型も、同館で展示していました。ですが、今回リメイクをして、引き続き展示をしています。ふたを半分開けた見せ方などは展示業者の方と相談しながら決めました。

——こちらのコーナーでは、**鵜川四十八体石仏**のレプリカも置かれていますね。

山本　これも高島歴史民俗資料館にあつたものです。大きな石造物は実物を持つてくるわけにもいかないので、これはありがたかったです。

原寸大の石棺模型も、同館で展示していたものです。ですが、今回リメイクをして、引き続き展示をしています。ふたを開けた見せ方などは、展示業者の方と相談しながら決めました。

隣の懸仏は、今津町の一番奥、福井県と接する椋川という集落の二つの神社から昭和60年（1985）と平成4年（1992）に見つかったものです。神仏習合を示す最たるもので、神様が仏様の形をして現れた姿ですね。

——明治の廢仏毀釈の時にしまわれたわけですか。

ておこうという感じだったのだと思ひます。2社あわせて25-2点あつた懸仏は室町時代のものが大半ですが、一部、平安時代後期のものもあります。

——かなり小さいので簡略化されていてこれもかわいいですよね。

その反対側のコーナーは、朽木氏についてです。

木谷一帯の領主たつた朽木家に残されていて、「朽木家文書」は重要文化財に指定されています。ほとんどは国立公文書館が所蔵しています。これは地元に残された朽木家に關係するものの一部です。

今回展示した中には、文明14年（1482）の「棕川貯米算用状」などもあり、本当にこんな中世の文書がよく残されてきたなと思います。

※ 7 飾履 古代の王や有力者の葬送儀礼で使われた金銅製の装飾的な靴。死者を装う副葬品として古墳から出土する。本誌表紙の上段写真中央を参照。

※ 10 鵜川四十八体仏 高島市鵜川にある花崗岩製の阿弥陀如来像群。高さ一・6m。48体のうち13体が大津市坂本の慈眼堂に移され、2体は行方不明、現在は33体が残る。

※ 9 大般若經 唐の玄奘が訳した大乗佛教の般若經典を集成したもの。

※ 10 懸仏 銅などの円板に仏像を鏽したものをつけたり、浮き彫りにしたりしたもの。寺社の堂内に懸けて礼拝した。鎌倉・室町時代に盛んに作られた。

門人への助力を惜しまなかつた教育者・藤樹

特集 | 中江藤樹・たかしまミュージアムオープン！

——そして、隣の部屋が「中江藤樹とその教え」の展示ですね。いま、中江藤樹の知名度は、どうなのですか。

早川 県外から藤樹を目指して来られる方が多いです。なかでも経営者やビジネスマンの方々は、京セラ会長だつた稻盛和夫さんやパナソニックの創業者・松下幸之助さんの経営哲学が陽明学や藤樹の思想に通じるというので、経営倫理や社員教育・人間育成という方面から藤樹を知る方も多いようです。

また、大河ドラマ『青天を衝け』(2021年)の放映時には、沢山の経由で藤樹を知る人もたくさんおられました。

——なるほど。では、展示資料をご紹介いただけますか。

早川 大洲（愛媛県）から帰郷した藤樹が小川村で生計を立てるため、酒の小売りをしていました時に酒を入れて貰ったとされる酒壺です。客を信頼して、今までいう無人販売をしていました。

つぎは、藤樹が門人の大野了佐に宛てて書いた手紙です。

——多目的エリアの映像資料で拝見しました。勉強は得意でないけれど苦労して医者になつた人ですね。

早川 教育者としての藤樹を象徴するエピソードの一つです。了佐は藤樹の同僚藩士の息子で、小川村の藤樹を追いかけてまで学ぼうとした人物です。この手紙で藤樹は、『捷径医筮』の新しいページができたことを告げています。藤樹は、誰もが志を持つて学問にはげむことができるよう、そのための助力を惜しみませんでした。

遠方の門人とは手紙のやりとりを中心に通信教育のような感じで、懇切丁寧にマン

ツーマンの指導をしていました。門人たちの勉強の助けになるよう、手づくりの辞書まで作っています。

——つくづくまめな人だつたのですね。教育者として非常にすぐれていたでしょう。

了佐が苦労の末に医者になつた時には、「私も精根尽くしたけれど、了佐本人の志が強かつたからこそだよ」と、彼の努力を称えています。

——こちらは、上下二つとも藤樹自筆の「孝経」ですが、上段の楷書体で書かれたものが「白文孝経」、下段の訓読文を仮名で書いたものが「かながき孝経」と呼ばれ、後者は妻・久のために書いたものと伝わっています。孝行の大切さを説いた「孝経」は、儒教経典の中で藤樹が最も重視したものです。最初の方にある「身体髮膚これを父母

※11 「捷径医筮」 中江藤樹が大野了佐のために編集した医学入門書。藤樹死後の明暦元年（1655）に京都の出版社から木版刷で刊行された。「捷径」は近道という意味。
※12 「孝経」 中国古代の孝道について孔子と曾子が交わした問答を、曾子の門人が書き残したものとされる。

——中江藤樹記念館の時代から、小学生向けの催しなども多かつたと思いますが。

早川 最後にあたるコーナーでは、藤樹の亡くなつた後、その教えがどのように広がり、伝えられ、現在の高島につながつていつたのかを紹介しています。

——藤樹は、明治になつてから、また再評価が起こっていますね。

高島市では3月7日の藤樹の誕生日にわせて「立志祭」という行事があり、市内の小学3年生が藤樹の学習をします。毎年夏休みに開催している「了佐でらこや小学校」では、從来行ってきた「論語」の素読や習字のほか、今年は新たに勾玉づくりや火起こし体験なども加わり、催しの幅が広がりました。子ども向けのコンテンツも、もつと増やしていくらしいなと思っています。

——本日はお忙しいところ興味深いお話をありがとうございました。
(2025.9.11)

蔵書数約1万5千冊！自費出版ライブラリー

「考耕行」オープン

「日本自費出版文化賞」（一般社団法人日本グラフィックサービス工業会が主催、NPO法人日本自費出版ネットワーク（JSN）主管）は、平成9年（1997）に創設され、翌年（1998）に第1回の募集・選考・受賞作の発表が行われました。

以来、第28回目となる今年は9月1日に受賞作が発表され、大賞は該当作なしでしたが、竹内尚代著『私のことは私が決める』が色川大吉賞

に、地域文化部門で「紙で残す私の一枚」刊行委員会編『紙で残す私の一枚』（須高郷土史研究会）、個人誌部門で菅原洋一著『手記「もやいの海」』（文芸社）などが各部門賞に選ばれています。

毎回1000冊程度の応募があり、当初からこれらの応募作品を私設の自費出版図書館や文化フォーラ

ム春日井（愛知県春日井市）などに寄贈し、公開展示が行われています。

第15回以降は、応募作品が分散することを避けるためJSN会員社であるサンライズ出版（滋賀県彦根市）で保管することになり、年に数回、会員社の協力のもと各地で巡回展示を行つてきましたが、一部の受賞作品を展示するにとどまっています。

作品の中には入手困難なもの多く、継続的な保存と公開の場を探していったところ、小学校跡地の施設の有効活用を望む学校法人ウォーリズ学園とのご縁があり、現「ウォーリズみらいビレッジ」の管理者である有限会社ウエストの運営により同施設内に10月1日、自費出版ライブラリー「考耕行」がオープンしました。



自費出版ライブラリー「考耕行」

住所 近江八幡市浅小井町699(旧近江兄弟社小学校)
ヴォーリズみらいビレッジ図書室

連絡先 携帯 090-1224-3246

開館時間 10:00 ~ 17:00

開館日 開館カレンダーに準ずる
(インスタグラム @koukou_books 参照)

入館料 無料(原則として予約が必要)

アクセス 無料駐車場あり/JR近江八幡駅よりタクシー約10分/
JR安土駅・近江八幡駅より近江八幡市民バスあかこん
バス安土北・金田コース

books 考耕行
インスタグラム



ヴォーリズみらいビレッジ
令和5年(2023)3月に廃校となった小学校の跡地を、地域交流やスポーツ振興の場として活用している施設

『別冊淡海文庫 石塔寺と石造三重塔』 発刊記念

石塔寺石造三重塔・見学会

11月1日(土) 10:00 ~ 11:30

石造三重塔としては日本最大の石塔寺石造三重塔を中心に、同じく国の重要文化財に指定されている石造宝塔1基・石造五輪塔2基、江戸時代後期に設置された八十八ヶ所石仏など、周辺の石仏・石塔群を著者の解説付きで見学します。



講師：大塚活美 氏（元京都学・歴彩館学芸員）

見学地：石塔寺（東近江市石塔町860）

集合場所：石塔寺駐車場

料金

淡海文化を育てる会 会員 500円（押録料込み）
一般 1,000円（押録料込み・資料代）

定員：20名（要予約、先着順）

お申し込み・お問い合わせ先

淡海文化を育てる会（サンライズ出版内）

TEL 0749 (22) 0627 FAX 0749 (23) 7720

Email : info@sunrise-pub.co.jp

見える湖南、湖西の8か所を和歌と共に絵に描くと、近江八景として広まりました。

本展では近江八景図を中心、八景成立以前の名品、重要文化財の近江名所図屏風や堅田図屏風などの絵画、さらに蒔絵や染織品などに展開する近江八景作品を展示します。

入館料：一般1300円、高大生1000円、小中生無料
休館日：月曜日（祝日の場合は開館し、翌平日休館）

■討論会

「近江八景を文芸と美術の観点から語り尽くす」

11月16日(日) 13:30 ~ 15:00

講師：鍛治宏介 氏（同志社大学教授）

國賀由美子 氏（元大谷大学教授）

司会：高梨純次（公財）秀明文化財団理事）

会場：南館レクチャーホール（美術館棟内）

参加費：無料

定員：100名（予約不要・当日美術館棟受付にて整理券配布）

お問い合わせ先：TEL 0748 (82) 3411

これまでの考古学的調査で明らかとなつた成果を集積し、近隣市の出土文化財、画像記録もあわせ、古代から中世にかけて野洲川下流域の村々がどのように変貌し現在の集落が構成されてきたかを紹介します。

入館料：大人300円、高大生150円、小中生100円
休館日：月曜日（祝日の場合は開館）、祝日の翌日



青磁輪花碗
(12~13世紀、五条遺跡)

■関連講演会

「野洲川下流域の発掘調査をふりかえる」

11月1日(土) 14:00 ~ 16:00

講師：大橋信弥 氏（元滋賀県安土城考古博物館学芸課長）

「湖南地域の発掘調査50年」

11月9日(日) 14:00 ~ 16:00

講師：雨森智美 氏（栗東市スポーツ・文化振興課）

畠本政美 氏（守山市立埋蔵文化財センター）

渡邊貴洋（当館学芸員）

会場：当館1階研修室

参加料：無料（要入館料）

定員：120名（事前申込不要・当日受付）

■遺跡見学会

11月3日(月・祝) 10:00 ~ 12:30

集合場所：当館1階研修室

定員：20名程度（事前申込不要）

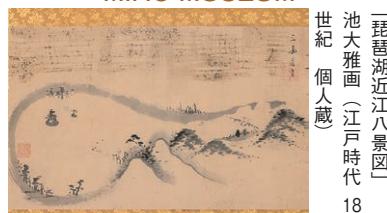
参加費：無料（要入館料）

お問い合わせ先：TEL 077 (587) 4410

秋季特別展 近江の名所

開催中～12月14日(日)

MIHO MUSEUM



琵琶湖近江八景図
池大雅画（江戸時代）
個人蔵

18

近江には万葉集以来、歌に詠まれる名所があります。近世、近衛信尹が膳所城から

第98回企画展
れきはくの大津絵

開催中～11月9日(日)

大津市歴史博物館

江戸時代、大津町の追分や大谷で街道の土産物として描かれていた大津絵。

開館以来収集を続けてきた当館の大津絵関係の収蔵品約150件を一堂に展示し、350年余りにわたって、仏画からユニークな近現代の大津絵キャラクターへと移り替わったさまざまな大津絵を紹介します。

入館料：一般800円、高大生400円、小中生200円
休館日：月曜日（祝日の場合は開館し、翌平日休館）、祝日の翌日



「鬼念仮藤娘図」 温山良隱
(江戸時代)
本館蔵

■記念講演会・れきはく講座

各回14:00 ~ 15:30

「大津絵と信仰」11月1日(土)

講師：クリストフ・マルケ 氏（フランス国立極東学院京都支部長・教授）

「アメリカの美術館における大津絵」

11月8日(土)

講師：鈴木堅弘 氏（京都市立芸術大学日本伝統音楽研究センター特別研究員）

会場：当館1階講堂

参加費：500円

定員：100名（事前申込が必要）

申込方法：当館HPの「講座・講演会情報」ページをご覧ください。

お問い合わせ先：TEL 077 (521) 2100

秋期企画展

野洲川下流域の暮らしの変貌
—発掘調査にみる古代・中世—

開催中～11月24日(月・祝)

野洲市歴史民俗博物館（銅鐸博物館）

野洲市は野洲川下流による広大な冲積地を有し、弥生時代以来稻作農耕を基盤として発展を遂げてきました。

滋賀まるごと読書フェア



主催：滋賀県教育委員会

「滋賀まるごと読書フェア」は、滋賀の子どもたちが読書に親しめるように、滋賀県の図書館や書店が一緒に行なうイベントです。



11/15(土)
文学のまち大津
湖都の葉マルシェ

大津湖岸なぎさ公園おまつり広場・
修景緑地（雨天：旧大津公会堂）等

「文学のまち大津」をテーマに初めて開催される湖都の葉マルシェでは、出版相談会や滋賀本の展示・販売、「滋賀コレかるた」のかけっこかるたを行います。

主 催：おおつ文学のイベント実行委員会

12/6(土)
ぼくら滋賀っ子「リボンむすびの宝箱」発刊記念
作者によるおはなし会

- 里山の小さな絵本屋さんカーサ・ルージュ
- ・リユース絵本プレゼント（つなぐ絵本ライブラリー）
- ・今関信子先生ミニ講演&作品よみきかせ
- ・「リボンむすびの宝箱」作者による朗読

滋賀のよさを伝える児童書を発行している滋賀県児童図書研究会顧問の今関信子氏のミニ講演会、作品のよみきかせを行います。

11/8(土)
きのものと秋のほんまつり2025
「本の入り口、届けます！」

木之本スティックホール

- ・ブックフェア 10:00 ~ 16:00
- ・トークショー 10:30 ~ 11:30
講 師：西靖 氏（毎日放送アナウンサー）
- ・講演会 13:30 ~ 15:00
講 師：伊藤比呂美 氏（詩人）
入場料：無料（講演会のみ有料）

主 催：（公財）江北図書館

会場住所：高島市マキノ町西浜953-17
参加費：無料 定員：25名
主 催：滋賀県まるごと読書フェア事務局

12/25(木)
琵琶湖上で開催する最終イベント
滋賀まるごと読書フェア～ミシガンクルーズ～
大津港 ミシガン（琵琶湖汽船）

13:45
~16:00
大津港から特別仕様で運航するミシガン船上の読書イベント

・「しがどうわ」紙しばい

滋賀の郷土料理や方言、場所などを童話にした「しがどうわ」が紙芝居になりました。

時間：約20分

Ⓐ 滋賀コレかるた大会

滋賀の魅力をつめこんだ「滋賀コレかるた」。小学生対象の「滋賀コレかるた大会」を行います。

時間：約60分

Ⓑ『成瀬は天下を取りにいく』著者 宮島未奈さんトークイベント

大津を愛する主人公・成瀬が乗ったミシガンで、彼女を生み出した宮島未奈さんのトークイベントを開催。

時間：約60分



応募方法

Ⓐ 滋賀コレかるた大会

滋賀県に在住または在学の4歳～小学6年生までの児童と保護者（1家族4名様まで）
定員：100名

Ⓑ 宮島未奈さんトークイベント

中学生以上の滋賀県に在住、在学またはお勧めの方
定員：100名（応募1件につき1名でお申込みください）

二次元コードの応募フォームよりお申込みください。**Ⓐ**または**Ⓑ**いずれかの枠で応募ください（両方のお申込みは無効となります）。

応募期間：10月中旬～11月16日(日)

当選発表

12月上旬にメールでお知らせします。

応募フォームは
こちら→

抽選で
200名
ご招待



くわしくは公式Instagramをご参照ください→

BOOKS

図書館巡回展

11/6(木)
わたしのまちの自費出版
滋賀

11/16(日)
滋賀県立図書館
休館日：月曜日・火曜日

11/28(金)
12/18(木)
わたしのまちの自費出版
大津

大津市立図書館 本館
休館日：月曜日・祝日

日本自費出版文化賞の受賞作品と、滋賀県の著者、滋賀県にまつわる自費出版物を展示。滋賀県立図書館では、編集担当が会場で本づくりの疑問にお答えします。

主 催：NPO法人日本自費出版ネットワーク

11/22(土)
電子書籍を作ろう
草津市立市民交流プラザ

14:00
~16:00
電子書籍作成ツールの使い方を学び、自身の原稿で電子書籍を作成し、スマホで読んでみよう。

会場：草津市立市民交流プラザ 小会議室1
(草津市野路一丁目15-5フェリエ南草津5階)

参加費：無料

定 員：20名（先着順）

対 象：中学生以上の滋賀県に在住・在学・お勤めで、一人でパソコン操作が可能な方
持ち物：ノートPCまたはタブレット（Wi-Fiは会場で接続できます）

※サンプルデータをご用意していますが、持参の原稿ファイル（テキストデータや画像）で制作を試すことも可能です。

主 催：滋賀県まるごと読書フェア事務局

申込フォームは
こちら↓





石田三成のつぶやき 戦国インフルエンサーの逸話と史実

ZIBU 編著／三成会議 協力
A5判並製本 総96頁 1980円(税込)

石田三成についての逸話や書状などを、X
フォロワー22万人超の著者がツイート風に
紹介する。史学博士の太田浩司氏が推薦する
面白マジメなオールカラー歴史考察。

滋賀県妖怪事典

峰守ひろかず著／久正人 イラスト
A5判並製本 総284頁 2970円(税込)

滋賀県内に伝わる妖怪を収集、計1,000体
を50音順に紹介。さらに地域別(旧市町名/
新市町名)、人間型や動植物型、音声や地名
の由来などの特徴をカテゴリごとに並べた索
引も掲載。



リボンむすびの宝箱

滋賀県児童図書研究会 編著
A4判変形並製本 総184頁 1540円(税込)

滋賀県の小学5年生が経験する湖上學習船
での様子を記した『うみのこ』フレンズ、
唯一の有人島沖島の風景を切り取った「千円
畳のひみつ」など15編を収録した童話集。



岐阜県のお城・館一覧

横山明弘 編著
A5判並製本 総192頁 2750円(税込)

滋賀県に続く岐阜県版。カラー版城館地図
では、『岐阜県中世城館総合調査報告書』以
外にも新たにわかった城を多数掲載。著者が
参考文献等で調べた城館や城主、築城・廃城
年も収録。巻末索引付の便利な一冊。



表紙写真 中江藤樹・たかしまミュージアム展示室

編集後記 鴨稻荷山古墳出土の金銅製冠と飾履の装飾について、少し解説。
紫紺色の球体はガラス玉、白いふさは絹糸を束ねた菊綴飾りというものだそうです。飾履は足の裏の面にも装飾が施され、实用性はありません。展示では、裏面が見えるように、飾履の下に鏡が置かれています。もう一つの、金製垂飾付耳飾は、純金製なのでほとんど劣化しない状態で発見されました。所蔵している東京国立博物館で、関連の特別展があると展示されます。 (土)



蜂屋廃寺と法隆寺 出土した大量の瓦が語るもの

栗東市教育委員会・(公財)栗東市スポーツ協会 編
四六判並製本 総166頁 2200円(税込)

2018年に栗東市の蜂屋遺跡から見つかった
大量の瓦の中には、奈良・法隆寺に葺かれて
いた瓦と同じ文様のものもふくまれていた。
2024年開催のシンポジウムを書籍化。

70歳独居老人の京都従心案内 完全版

成田樹昭 著
B5判並製本 総248頁 1430円(税込)

「京都に最大の影響を及ぼした天下人は秀
吉かも知れない」——大河ドラマ「豊臣兄
弟！」予習に豊臣秀吉による京都大改造の跡
をたどるガイド本にも最適。近代京都の象徴・
琵琶湖疏水についても1章分を割いて紹介。



南国土佐の謎を解く

「いごそう」と「ハチキン」の議論好き



成瀬龍夫 著

A5判並製本 総192頁 1980円(税込)
プリントオンデマンド
アマゾン・楽天ブックスでPODにて発売中

土佐人は大酒飲み？ 土佐弁には敬語がない？
文化の源流は淫乱者？ 内容は人気がない？
幕末や明治の反骨精神などから生まれたの？
政治の本義は君主制か何のためにアーティ
ス文化は原本義とアンバランスに構りすぎ？

やそじ 八十路の自由研究 小泉のタイムズ回しと全国の火振り・火回し調査

北沢尚慈 著
A4判並製本 総180頁 非売品
問合先 彦根市小泉町779 (著者)

著者の住む彦根市小泉町で受け継がれる「タ
イムズ回し」と、北は秋田市の「火振りかまくら」
から、南は阿蘇市の「火振り神事」まで12か
所の火振り・火回し行事を調査。(2025.8刊)



アンケートのお願い

Duetをより良い情報誌にしていくために、ぜひ皆
さまの率直なご意見・ご感想をお聞かせください。



インターネットでDuetがお楽しみいただけます

<http://www.sunrise-pub.co.jp/>

